



川越市における多職種連携の実践

令和8年7月2日 川越市在宅医療拠点センター
堀江 香織



川越市の概要

埼玉県の総面積 3,797.75 km²に
対し、109.13km²
県内割合2.87%を占める

人口：約35万人
(川越市は埼玉県内で3番目の人口規模)
高齢化率：約27.16%
独居高齢者単身世帯が増加
2040年には32%超へ



医療機関・介護事業所が多く在宅医療ニーズが高い地域

川越市といえば・・・

喜多院



時の鐘や蔵づくりの街並み

りそなコエドテラス



川越市の地域包括ケアの強み

- ・ 住み慣れた地域で暮らすために、地域包括ケアシステムを積極推進
- ・ 9つある地域包括支援センターすべてに理学療法士を1名配置
- ・ 川越市社会福祉協議会が、生活支援・地域づくりの基盤として積極的に参画
- ・ 医師会×市役所×包括の連携が強い
- ・ 在宅医療拠点センターが委託を受け、医療と介護の橋渡しを強化

川越市が目指す地域包括ケアシステム（イメージ）

医療が必要になったら・・・

医療



薬局



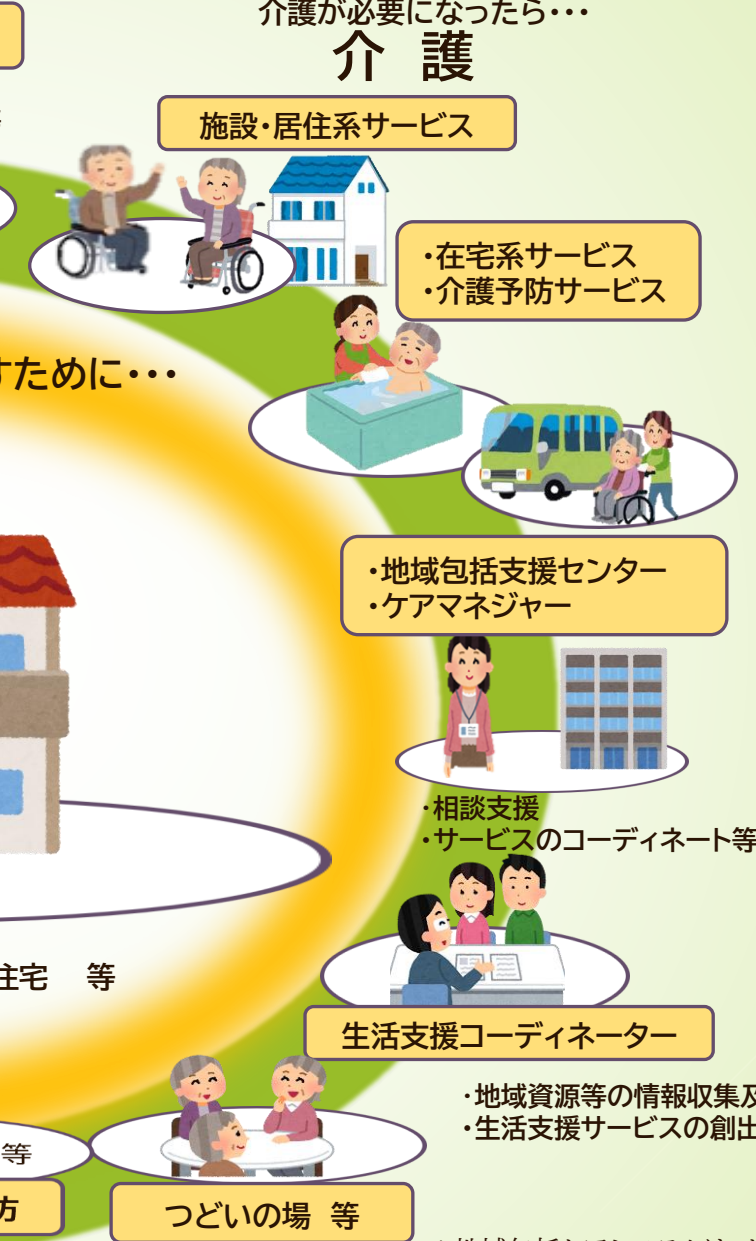
在宅医療拠点センター

- ・医療と介護の連携拠点
- ・在宅医療に関する相談 等



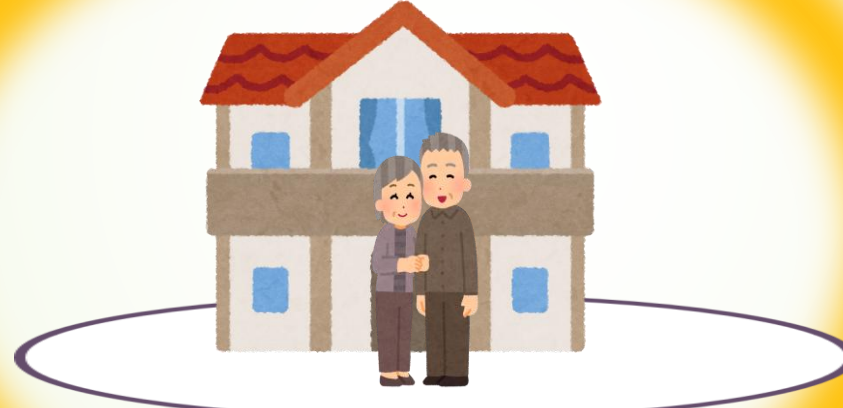
介護が必要になったら・・・

介護



住み慣れた地域で暮らすために・・・

住まい



- ・自宅
- ・サービス付き高齢者向け住宅 等



いつまでも元気に暮らすために・・・

生活支援・介護予防

*地域包括ケアシステムは、おおむね30分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域を単位として想定しています。
厚生労働省老健局「地域包括ケアシステムの構築について」を改編

コミュニティケアネットワークかわごえ

医療・介護・福祉・行政の27団体が参加

医療系

川越市医師会

川越市歯科医師会

川越市薬剤師会

理学療法士会

作業療法士会

言語療法士会

柔道整復師会

看護協会

歯科衛生士会

栄養士会

埼玉医科大学総合医療センター

鍼灸師会

介護系

居宅介護支援

訪問看護

訪問入浴・訪問介護

通所リハビリ

通所介護
認知症対応型通所介護

訪問リハビリ

短期入所療養介護
短期入所生活介護

福祉用具貸与
福祉用具

介護老人福祉施設
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

介護老人保健施設
介護医療院

認知症対応型共同生活介護
小規模多機能型居宅介護
看護小規模多機能型居宅介護

特定施設入居者生活介護
地域密着型特定施設入居者生活介護

計27団体



介護予防 在宅療養

目的

ネットワークの構築
同職種間・多（他）職種間の資質向上
地域ケア会議の推進

川越市

川越市社会福祉協議会

地域包括支援センター

川越商工会議所

在宅医療拠点センター

多職種が自然に連携できる“土壌”が整っている

コミュニティケアネットワークかわごえの設立の経緯と目的

川越市医師会の取組み経過

取組のきっかけ

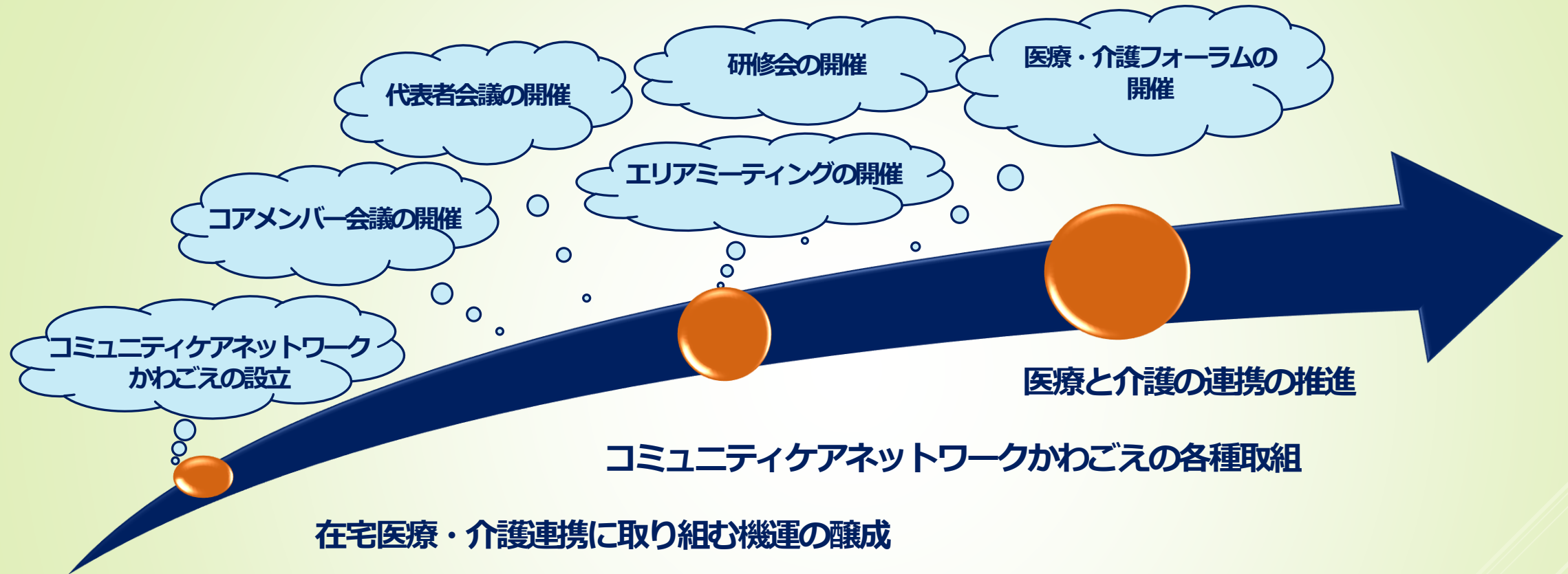
- 平成26年 1月27日 第1回 医療介護フォーラム開催
- 平成26年10月 川越市から地域包括ケアシステム構築に向けた協議開始の依頼を受ける
- 平成27年 1月21日 第2回 医療介護フォーラム開催
- 平成27年11月13日 「(仮称)川越地域包括ケア推進協議会 第1回準備会」開催
- 平成27年12月 1日 「(仮称)川越地域包括ケア推進協議会 第2回準備会」開催
- 平成28年 1月13日 「(仮称)川越地域包括ケア推進協議会 第3回準備会」開催
「コミュニティケアネットワークかわごえ 役員会」開催

医療、介護、行政等の関係者が出席し、
コミュニティケアネットワークかわごえ（川越地域包括ケア推進協議会）を
川越市医師会に設立する合意形成がなされた。

コミュニティケアネットワークかわごえの目的

川越市における在宅医療・介護連携の推進について、**医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、在宅医療と介護サービスを一体的に提供するため**、川越市と連携し、地域の医療・介護関係者のネットワークの構築、同職種、多（他）職種間の資質向上を推進するにあたり、**医療と介護の連携のあり方や仕組みづくりについて協議を行う**ことを目的とする。

コミュニティケアネットワークかわごえの方向性について



コミュニティケアネットワークかわごえの3つの取組みにより、医療と介護の連携の推進をはかることで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる。

- 1 多職種の共通理解の促進、情報共有の円滑化
- 2 地域の多職種連携（顔の見える関係）の具体化
- 3 職能・業種における同職種・多職種間の連携推進

1 多職種の共通理解の促進、情報共有の円滑化

コアメンバー会議

構成団体

8 団体で構成

- ①川越市医師会②川越市歯科医師会③川越市薬剤師会④埼玉県理学療法士会
⑤小江戸川越ケアマネジャー協会⑥かわごえ市訪問看護連絡会
⑦川越市デイサービス連絡協議会⑧川越市地域包括支援センター

取組内容

全体の活動方針・取組内容の検討

- ・全体の活動方針や取組の提案
- ・エリアミーティングの企画立案
- ・医療介護フォーラムの企画立案

代表者会議 令和4年～年2回開催

構成団体

全団体（27団体）で構成

取組内容

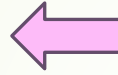
全体の活動方針・取組内容の検討及び決定

2 地域の多職種連携（顔の見える関係）の具体化

エリアミーティング

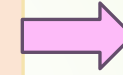
川越市内を**3つのエリア**に分け、エリアごとに医療・介護等関係者の
顔の見える関係づくりを行い、**地域での多職種連携の更なる強化**を行う

7/23(水)



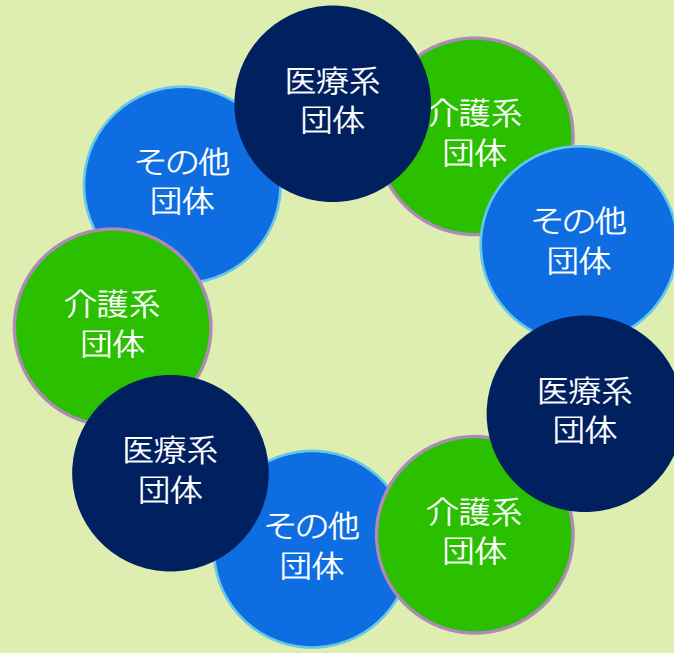
R7年度 CCNかわごえ
夏季災害対策研修会
7/23 7/25
2日間 開催

7/25(金)



令和7年度 11/17(月)
CCNかわごえ代表者対象
合同エリアミーティング

3 職能・業種における同職種・多職種間の連携推進



職能・業種団体間の協働・連携による取組
同業種間の連携（資質向上）
職能・業種の役割の明確化

日頃から各団体や専門職の協働や連携が行われている。

毎年の医療介護フォーラムも、コミュニティケアネットワークかわごえの
各団体や専門職の協働や連携があり、開催に至っている。

昨年は台風の影響により中止となりましたが、ご期待にお応えし、あらためて開催いたします！

第13回 医療介護フォーラム

令和7年
日 時 **10/26日** 開場 12:00 13:00~15:00

会 場 ウェスタ川越 大ホール
川越市新宿町1-17-17
公共交通機関、またはお近くの有料駐車場などをご利用ください。

参 加 参加費無料・申し込み不要
どなたでも参加可能です！直接会場にお越しください。
手紙通訳を希望する場合には、10月10日までに事務局までお申し出ください
(ただし、座談会につきましては、対応できません)

- 認知症のある方と堀田聡子さんによる座談会
- 誰もがあきらめずに暮らし続けるための各地のチャレンジをお伝えします



ほった さとこ
堀田 聡子 さん
慶應義塾大学大学院教授
仲間たちと「認知症未来共創ハブ」を立ち上げ、
認知症のある方の思いや体験・知恵を中心に、
安心して認知症になれる未来を探索する。

パンフレットコーナー(2階ロビー)
医療や介護に関するパンフレットの設置や、お住まいの地域包括支援センターのご紹介、認知症関連図書のご案内を実施します。

当イベントは悪天候等により中止とさせていただきます場合があります。
その際には川越市医師会ホームページ、川越市ホームページ等でお知らせいたします。

■問い合わせ コミュニティケアネットワークかわごえ事務局(川越市医師会事務局)
電話 049-222-0794(平日8時30分~17時30分)
Mail zaitaku@kawagoe.saitama.med.or.jp

■共 催 コミュニティケアネットワークかわごえ・川越市



第13回医療・介護フォーラム
10/26(日)

川越市在宅医療拠点センターの役割

在宅医療拠点センターは、市の委託を受けてこれらの事を行っています。

- ①在宅医療に関する相談支援（高齢者・専門職向け）
- ②入退院支援ルール
- ③ICTツール（MCSの普及に向けた取組）
- ④市民・専門職向けACP・在宅療養の普及啓発（出前）
- ⑤医師によるACPの普及啓発講師人材バンクの運営
- ⑥多職種研修の企画・運営
（医師会在宅医療委員会の先生方と共に協働開催）

医師の負担を減らし、地域全体の在宅医療を支える“ハブ”として機能しています。

令和7年6月～医師会館からすくすくかわごえへ移転

これまで、川越市医師会館に4階にあった事務所から... 令和7年6月に本川越駅側の「すくすくかわごえ」4階へ移転



同じ医師会所属の「地域包括支援センター中央にし」の2つ隣(フロア奥)へ



包括中央にしの皆さんも温かく迎えてくださり、新しい事務所での出発を迎えました

地域について知るため、参加した場で、拠点センターについて知られていない事を知る！！

① 包括主催の地域圏域ケア会議
に出席したところ・・・



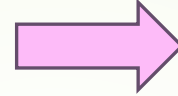
まさか拠点センターって
知られていない！？



在宅医療拠点セン
ターって・・・？

在宅医療拠点セン
ターって・・・？

②



このままではいけない!!
連携のためにも、地域の課題を
知るためにも拠点をもっと
知ってもらわなくては!!



③

そこで!!

事業所訪問先で
お困り事や課題に
ついてヒアリング



参加できるものに顔を出して拠点を
知ってもらうために職員全員で奔走



ご挨拶先では必ず名刺交換。拠点センターが
運用するMCS(川越医療・介護従事者グループ)
にも加入のお願いをお勧めする日々



在宅医療拠点セン
ターです

包括主催の地域圏域ケ
ア会議に出席し、チラ
シを配布&出前講座等
を宣伝

ICT(MCS)による情報共有



川越(医療・介護従事者グループ)

基本情報

川越の医療・介護従事者によるネットワークグループです。本グループは、川越市医師会・在宅医療拠点センターが運営しています。

地域の“つながり”を育み、日々の連携がよりスムーズになる場としてご活用ください。

研修や講座の案内、地域での取り組みの共有、参加者同士のやり取り、災害時の連絡・情報共有など、さまざまな情報交換にお役立ていただけます。

グループ参加条件・ルール
川越市に関わる医療・介護従事者



川越市在宅医療拠点センターは、

ICTツール「MCS川越(医療・介護従事者グループ)」の運営に携わっています。

医療・介護の専門職ならどなたでも参加でき、地域のつながり・連携を強化する“川越独自の情報共有基盤”として機能しています。

今年5月には運用を拡大し、研修案内・地域情報の共有・災害時の活用まで視野に入れた体制へ進化しました。

拠点センターからの発信だけでなく、皆さまからの 現場の声・お知らせ・困りごと を共有できる仕組みとし、地域のリアルな情報を可視化する場として活用しています。

市民、専門職向け出前講座

(ACP・在宅療養・もしバナゲーム) の申し込みが

増加!!



①人生会議 7回



②在宅療養 3回



③もしバナゲーム 3回



④人生会議+もしバナゲーム4回

拠点職員による出前講座 (4講座)計 17回開催

医師によるACP普及啓発講師人材バンク

8月～2月(年10回開催)



川越市在宅医療拠点センターも顔の見える関係作りに努めた



市民・専門職からの相談支援
➡前年より84件増加



7/2 (水)入退院支援ルールとして、
地域連携に向けた勉強会を開催



7/11(金)第1回病院情報交換会
(MSW対象)



11/26(水)医師と(介護・相談)支援専門員の
意見交換会



1/14日医療・介護従事者向け人生会議研修会



2/27(金)第2回病院情報交換会
(MSW/NS/包括対象)

川越市の多職種連携の特徴

川越市の多職種連携の特徴は以下の通りです。

- 医師会・市役所・包括の連携が強固
- CCNかわごえ(27団体)が機能
- ICT(MCS)による情報共有
- 研修・意見交換会が活発
- 市民の理解の進展
- 拠点センターが連携役として調整をおこなう

川越市の医療の特徴

川越市の医療の大きな強みは、地域の医師の先生方が「かかりつけ医機能」やACP（人生会議）の重要性を深く理解し、病診連携・医診連携に非常に熱心である点です。

- かかりつけ医を持つことの重要性を、市と医師会が一体となって普及
- ACPの推進を在宅医療委員会が主体的に支え、在宅移行の不安を軽減
- 病院と診療所、診療所同士の連携(病診・医診連携)を大切にしている。
- 医師会の先生方が地域の多職種と積極的に関わり、支援の方向性を共有

地域のために、患者さんのために、日々熱心に取り組んでくださっていることが、川越市の医療と在宅医療の質を支える大きな力になっています。

まとめ

- ◆ 川越市は、医療・介護・福祉・行政が連携しやすい土壌があり、CCNかわごえという他市にない多職種ネットワークがあります。
- ◆ そして行政・社協・包括などによる市民への支援体制も充実しています。
- ◆ 在宅医療拠点センターは、医療と介護連携のハブとして機能。
- ◆ 川越市は、医療を始める医師方にとって非常に良い環境が整っている地域です。
- ◆ 今後も多職種連携による医療・介護のモデル都市を目指して取り組んでまいります。



ご清聴ありがとうございました

